

鳥獣被害のない 里づくりを目指して

—野生鳥獣から地域を守る—

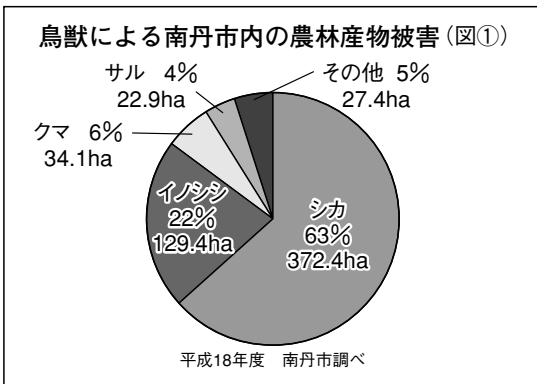
今年も実りの秋を迎え、気掛かりなのは「野生鳥獣」による農林産物への被害です。毎年、農家や家庭菜園の持ち主から、シカ、イノシシなどによる被害の情報が寄せられており、地域の農林業や人々の生活を守る対策が必要となっています。

野生鳥獣被害の現状

南丹市では野生鳥獣による農林産物への被害が多く、特に水稲や麦類、野菜、果物類、豆類などへの被害が大きな問題となっています。

現在、南丹市に生息する農林産物に被害を及ぼす主な野生鳥獣として、シカ、イノシシ、サル、タヌキ、アナグマ、アライグマ、ヌートリア、クマ、ウサギ、カラス、ハトなどがいます。

平成十八年度のこれら野生鳥獣による農林産物への被害額は、南丹市だけで約一億四



昔の農山村では、薪を家事的燃料として使用するため、毎日のように人が山に入っていました。そのため、山にすむ動物たちも、人が立ち入らないような山奥にすみ、人里へ下りてくることがない共存の社会ができていました。しかし、現代は人が山に入らなくなり、動物たちが里に下りやすくなったため、昔のような生活圏のバランスが崩れたことが被害発生の要因の一つとされています。

野生鳥獣への被害対策

千万円にもなり、図①に示すように、主にシカ、イノシシ、クマ、サルによる被害が多くなっています。また、南丹市は六百十六・三一平方キロのうち約八十八平方キロが森林という環境であり、とりわけ広域で被害が起きています。

豊かな自然環境を誇る南丹市で、その自然の恵みを受けながら生活している、私たち人間と地域の農林産物を守るために、南丹市では、さまざまな対策を行っています。

繁殖期を除き通常は雄の群れと雌の群れとに分れています。交尾期の秋に、雄は山に響き渡る特有の鳴き声を発します。雌は普通、生後一年半で性的に成熟し、約二百二十日の妊娠期間を経て五、七月頃に出産します。雄の小ジカは母親とともに一、二歳までともに行動し、その後には雄と群れを作ります。

野生のシカは主にイネ科の草や木の葉、ドングリ、ササなどを食べていますが、有毒なシキミやアセビなど一部を除きほとんどの植物を食べることができず、シカは一度飲み込んだ食物を胃から再び口中に戻してかむ反芻動物で、二、四時間ごとに食べては休んで反芻するという活動を繰り返しています。

食害以外にも、角を樹木に擦りつけて皮をはぐ被害もあり、農林作物にシカを近づけない対策が必要です。



ニホンジカ

農林産物に 被害を及ぼす 主な野生鳥獣